

とまこまいしの“ふくし かわら版”

ふくふく通信



2019年3月

とまこま
2011 設立

発行：苫小牧市福祉部

地域福祉活動は、地域の皆さんが**ふだんのくらしを**しあわせにするために行う自主的な活動です。

苫小牧市では「笑顔あふれるふくしのまちづくり」をテーマに掲げ、福祉部と苫小牧市社会福祉協議会が協働し、プロジェクトチームをつくり、地域をしあわせにする活動を一年間取材してきました。地域の皆さんの工夫した取り組みや熱い思い、笑顔にたくさん触れることができました。今回の通信では、その一部を紹介します。

お互いを思いやる気持ちがまち全体に広がり、笑顔としあわせがさらにあふれるよう、今後も地域の皆さんと共に考え、サポートしていきます。

サロンゆうふつひろば (勇払自治会)

平成30年8月、勇払地区で「サロンゆうふつひろば」がスタートしました。

主催している勇払自治会の「少子高齢化が進むなかで、これまで地域に尽力された方々が外出したり、人と会って話したりするきっかけを増やしたい」という思いがサロン立ち上げにつながりました。

参加した方からは「ゲームで頭を使ったり体を動かしたり健康にも良い!」「皆で食べるとおいしい」「人と話をするのが楽しい」との感想が多く聞かれています。一人ひとりが場を楽しみ、自ら、家族、友人や知人を誘うなど、口コミの広がりによって参加者が増えています。



ときわクラブの世代間交流

ときわ老人クラブでは、子どもたちに外でも遊んでもらいたいという気持ちから「むかし遊び」を始め、活動を通じて、地域の子どもの世代間交流に取り組んでいます。

地域の児童センター等から依頼を受け、老人クラブのメンバーでコマ、紙飛行機、あやとりをはじめとした10種類以上の遊びを用意して訪問します。

子どもたちも普段経験したことがない遊びを、老人クラブの皆さんに教えてもらいながら楽しく遊んでいました。

ときわクラブ会長の瀬戸さんは、「メンバーみんなが子どもたちから元気をもらい、楽しんでいるため、疲れや苦労は感じない。今後も依頼があれば、色々なところで活動したい」と笑顔で話されていました。



日新町町内会

日新町町内会では町内会役員の高齢化や成り手不足解消を目的に平成25年から町内会行事をサポートするフィールドサポーターという組織を立ち上げています。その中で、都合の良い時だけでも声をかけ、若い世代も気軽に参加できる土台を作っています。

平成30年7月に行われた「日新まつり」ではサポーターが町内会役員と協力して準備をする姿が見られました。町内会役員の方からは、「立ち仕事が続くと足腰が辛いため助かっている」という声を聞くことができました。

お祭りに来た知人に声を掛け、サポーターに配られるTシャツを渡し参加してもらうなど、様々な工夫がされていました。



担い手不足解消に向けた取組

平成30年7月に行われた「拓勇西町内会10周年記念夏祭り」ではボランティアスタッフを募集して開催され、小雨が降っていたにもかかわらず大勢の方が訪れて、大盛況でした。

地元の中学生40名以上を含め、去年よりも多くのボランティアスタッフが出店の手伝いを行いました。

中学生の中には終了時間一杯まで生き生きと作業を行う、意欲的な姿が見られました。

子どもが町内会行事に参加することで、楽しみながら人のために尽くす喜びを学び、成長できるよう、地域と学校が一体となって取り組んでいます。



拓勇西町内会

連携

日新町町内会のフィールドサポーターに関心を持った拓勇西町内会とプロジェクトチームが関わることがきっかけとなり、町内会の代表がお互いのお祭りに足を運び、平成30年10月には両町内会の間で座談会が開催されました。

そこでは、地域が抱える課題、今後の連携点や協力内容などについて意見交換が行われました。

上記の地域福祉活動についてのお問い合わせや相談、お住まいの地域で実践されている活動の情報提供などがあれば、福祉部総合福祉課（電話：0144-32-6345）までお願いいたします。

今後も市と社会福祉協議会、地域の皆さんと一緒に笑顔あふれるふくしのまちづくりを進めていきましょう。

